



# 自分とチームを信じること

中原 剛士

九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野教授

この原稿を書いている現在、2022 FIFAワールドカップ(以下、カタールワールドカップ)が行われており、日々ハイライト番組をみて楽しんでいます。もともと小さいころからサッカーが好きで、初めてワールドカップの存在を知ったのは1986年のメキシコワールドカップでした。ディエゴ・マラドーナを擁するアルゼンチンが優勝した大会です。もちろん当時は試合をみることもほとんどできなかったわけですが、『キャプテン翼』ブームもあって、なぜかはまっていました。

その後日本サッカーは、1993年のドーハの悲劇、1998年のジョホールバルの歓喜、2002年の日韓ワールドカップの熱狂などを経て、ワールドカップ出場がほぼ当たり前になるという進化を遂げました。個々の選手をみても、海外のチームに所属する選手が増え、ときにいわゆるビッグクラブといわれる強豪チームに所属し活躍をみせる選手まで出てきました。そして今回のカタールワールドカップのグループリーグでは、なんと強豪ドイツとスペインに逆転勝ち。数十年前に、いったい誰がこのようなことを想像できたでしょうか？ このような進歩には、多くの要因があったと思います。1993年にJリーグが発足し、地域に根差した多くのクラブチームができたこと、身近なクラブチームをみて子どもたちが育ち、プロサッカー選手になることや海外移籍をして海外のクラブチームでプレーすることなどが

目標になりうるようになったことも要因の一つだと思います。さらに日本代表選手のメンタリティも、国を背負って戦うことに加え、最近の選手は日本代表を自分の存在価値を高める場として捉え、強い気持ちで戦っているのを強く感じます。

そして今回のドイツ戦とスペイン戦ですが、とくにドイツ戦での前半の戦いは非常にストレスのたまるもので、私は、勝利は100%ないと思っていました。しかしご存じの通り素晴らしい逆転勝ちです。このとき、チームマネジメントの重要性(監督の采配・指示、チームのコミュニケーション次第でチームはいくらでも変化できること)、自分とチームを信じる強い気持ち(選手たちはいままで自分たちがやってきたことを信じて本気で勝てると思っていたと思います)に本当に驚くと同時に、それらがいかに大事かを再認識しました。そしてこれは、多くの先人たちのさまざまな努力・失敗の積み重ねのうえに成り立っていると思いました。このことはどの分野にも、もちろん皮膚科学にも通じることだと思います。

原稿執筆時点でクロアチアにPK戦ののちに敗れ、史上初のベスト8進出は果たせませんでした。しかし私は、今回の大会に日本サッカーの大きな進化を感じ、自分とチームを信じることの重要性を再認識し、大いなる刺激を受けましたので、感謝感謝の気持ちです。